

石高神社報

第三十一号

隨身門修復工事いよいよ開始

隨身門修復工事の予定が大体決まりました。来春ごろから足場を組んだのち、解体復元工事に入る予定です。完成は再来年の五月の見込みです。業者は地元の新東住建工業です。増税を控えて仕事がたて込んでいたため、予定より遅れましたが、何とか増税前の金額でできる運びとなりました。

ご寄進の額は、前回の修理の残金を合わせると、十一月十五日現在壱千万円に達しています。隨身門の中には、隨身像がありますが、この像も大変傷んでいます。できればこの像も修復をしたいと思っていましたところ、おかげをもちましてもう少しでできるところまでご寄進が集まりました。そこで、しばらくの間ひきつづき隨身像の修復のためのご寄進のお願いを継続することにしました。まことに勝手なお願いですが、よろしくお願申し上げます。

また、御本殿にカシの木の枝が当たって、建物を傷めるようになっていきます。枝打ちをするには、足場を組む必要がありますので、この機会に切ることも計画しています。

発行日 平成二十五年十一月二十日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市中区円山八五三
電話 〇八六―二七七―九〇〇三



傷んだ隨身像



枝がかかった御本殿

平成の御遷宮

平成二十五年という年は、六十年ぶりに天つ神と国つ神を代表する神々の社であられる伊勢神宮と出雲大社がそろって御遷宮を迎えられた慶事の年でした。そこで、あらためて御遷宮の歴史と伝統に思いをめぐらし、日本文化の奥深さ、高い精神性に今一度目を向けてみたいと思います。

二十年ごとに行われる伊勢の遷宮の制度は天武天皇が定められ、持統天皇四年（六九〇）以来、今回で六十二回を数えます。出雲大社も創建以来、何度も修理と御遷宮が行われてきていますが、江戸時代以降は約六十年

に一度行われています。

「遷宮」とは、御神体や御神座を本来あったところから移し、社殿を元と同じに修造し、再び御神体におかえりいただくことです。

御遷宮の意義は、木造建築の建物を維持していくためであるとともに、社殿の建築技術を継承していくための知恵だとも言われています。しかし、御遷宮の本当の意義は、円循環する時間の概念の中で、原初・原点にもどり、よみがえることで、「永遠の命」を次世代に継承していくということにあるようです。

時間の矢は、物理学的には直線で、過ぎるともどつて来ません。しかし、還暦や正月・季節といった円循環する時間の概念の中では、初めにもどり、よみがえることができます。そして、新しいことや初めてのものには、皆ワクワクするものです。遷宮という一大祭儀は、神様が最初に鎮座された時のワクワクするこのうえない歓びと感謝・祈りを再現し、神威の更なる発揚を仰ぎ、国も人々も皆がおかげをいただくとうとする心の営みが、具体化した行為であるといえます。

前回（昭和二十八年）のおそろいでの御遷宮は、戦争という最大国難の後でした。今回も一大国難である東日本大震災の後であります。よみがえられたこのうえない御神威、御神徳のご利益にあやかっつて、復旧、復興を果たすことができるかと確信する次第です。

氏子内の神祠④ 地神さま

近隣では、部落ごとに「じんさま」と呼ばれている五角柱の石造物が見られます。

石柱の五面に刻まれた神々の名前は、次の五神となっております。

天照大御神（五穀の祖神）、倉稲魂命（うがのみたまのみこと・稲の霊で食料の神）、埴安媛命（はにやすひめ・土の神） 大己貴命（おおなむち・農耕神）、少彦名命（すくなひこな・国土造成・農耕の神）

曆に記載されている雑節のひとつで、春分と秋分にもつとも近い戊（つちのえ）の日を社日といいます。この日には仕事を休み、土をいじらないなどと伝えられています。起源ははっきりしませんが、「社」という漢字のなりたちには、農民が共同で祭る農耕地の神という意味があるので、この日に農家が講の組織をつくってお祭りするようになって現在に至ったと考えられています。写真は円山のもので、春秋の社日にお祭をしています。

石高神社の石造物④ 獅子・狛犬

獅子・狛犬はインドのライオンの像が中国・朝鮮を経て伝来したもので、高麗（こま）から伝来した犬という



ことから、普通コマイヌと呼ばれています。守護と装飾を兼ねて置かれており、多様な形のものがあります。当社には、表参道と裏参道の鳥居の奥に花崗岩でできた一對の狛犬があります。表のものには、文政十五年庚寅十二月吉日 山表産子中、裏のものには文政八年酉年八月吉 藤原邑講連中と彫つてあります。また、両方とも次のような特徴があります。

耳―垂れ、身構え―座り、
阿吽の型―向つて右が阿・左が
吽、角―吽の方だけに有、
尾―炎型、性別―無」

獅子と狛犬を区別してみると、「阿」の像が獅子、角があると、「吽」の像が狛犬です。

写真は表参道の「阿」の像です。



境内の生物⑥ ハゼノキとヌルデ

ウルシの仲間のハゼノキとヌルデは、秋になるときれいに紅葉して実をつけます。しかし、触るとかぶれるので、注意が必要です。ヌルデの葉の茎にはヒレのようなものがついているので区別がつきます。どちらも雌雄異株なので、実をつける株とつけない株がありますが、ハゼノキの実からは木ロウが採れます。ヌルデにはアブラムシの一種のヌルデノフシムシが寄生して、五倍子という虫こぶができています。これは、タンニンが豊富な

で染料やお歯黒などに利用されてきました。

石高神社正月行事のご案内

◎歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後の一時ごろまでは新年の家内安全祈禱、三が日の午前九時ごろから夕方五時ごろまでは新年の家内安全祈禱と厄払いなどを行っています。

◎どんど焼きおよび古神札焼却祭

一月十四日以降で最初の土曜または日曜に、境内で行なっています。

平成二十六年は一月十八日(土)午前十時より行う予定です。正月のお飾りのほか古神札焼却も行います。なお、ビニール、プラスチック、金属類はなるべくはずしてご持参ください。当日は、はずす作業をした後に焼却します。また、例年どおりぜんざいを用意する予定です。

平成 26 年の どんどまつり

1月18日(土)

午前10時から

11時半頃まで

接待のぜんざい
があります。

◎厄払い

その年の厄歳、祝歳の方がお祓いを受ける慣わしです。

当社では、二月一日が「厄払いの日」とされており、一般には元日から節分のころまでにお参りするものとされています。平成二十六年のおもな厄年と祝い年を一覧表にしましたので参考にしてください。祝い年は男女ともに同じです。また、厄年には、前後に前厄と後厄があります。

平成 26 年 厄年 祝年

数え年	生まれ年
女 19 歳	平成 8 年生
男 25 歳	平成 2 年生
女 33 歳	昭和 57 年生
男 42 歳	昭和 48 年生
還暦祝	昭和 29 年生
古希祝	昭和 20 年生
喜寿祝	昭和 13 年生
傘寿祝	昭和 10 年生
米寿祝	昭和 2 年生
卒寿祝	大正 14 年生
白寿祝	大正 5 年生

石高神社のホームページ

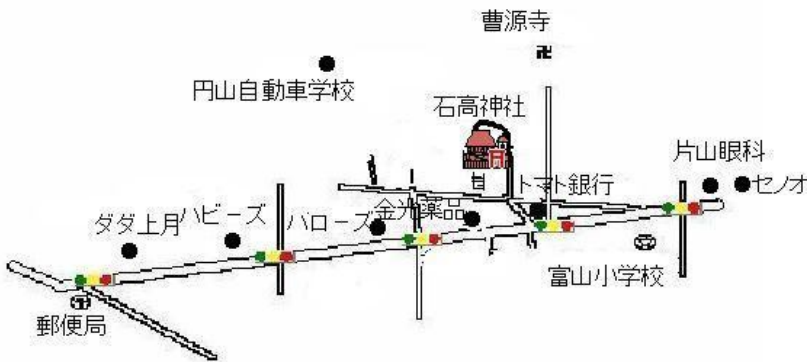
宮司手作りのホームページがありますのでご覧ください。行事の前後に更新しています。アドレスは <http://www31.ocn.ne.jp/~ishitaka> です。「石高神社」で検索すると出てきます。

石高神社の場所と駐車場

南側には、石段を上がる表参道があります。自動車でお参り場合は、宮山の東側を山に沿って進むと北側から山に上がる参道があります。下の地図をご覧ください。右に

少し曲がりながら上がると本殿の裏に出ますので、ここに駐車するのが便利です。まっすぐ進むと、表参道が上がった隨身門が見える所まで行きますが、行き止まりになります。なお、宮山の東北のカーブは見通しが悪いのでお気をつけください。

宮山の東側を山沿いに裏へ回ると、車で社殿裏まで上がれます。



初詣は氏神さまへお参りください。